

平成30年度

学校法人北照高等学校 学校評価書

学校法人 北照高等学校  
理事長 藤田 征晴 様

平成30年度学校関係者評価を、教員自己評価・校務分掌、学年の自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果に基づき下記の通り取りまとめましたので報告いたします。

1. 学校関係者評価の実施について

①平成31年2月25日 学校法人北照高等学校理事・評議委員会の中で実施

②平成31年4月27日 北照高等学校PTA総会の中で実施

内容 平成30年度3学期末までの教員自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果及び自己評価を教頭が説明。

2. 評価項目と評価内容

① 教育活動について

普通コースとスポーツコースという、目的の異なる生徒が在籍する中で、普通コースは、基礎学力の定着から進路を見据えて、資格取得の奨励、キャリア教育と様々な取り組みを堅実に進めているという印象を持った。また、スポーツコースの生徒は学業と部活動の両立を目指し、各種大会での活躍はもちろん、進路においても着実に実績を残している。これらのことから、学校の教育活動が生徒の成長につながっていることが伺える。

平成30年度は、生徒指導における重要な案件として、授業中の指導があったが、これを契機に様々な対策を行い、効果が出始めているという部分は評価したい。また、その他の指導案検討についても、事故を未然に防ぐ対策はもちろん、事後の対応も丁寧に、そして継続的に行う努力をしているとのことであったため、今後も引き続きその姿勢を維持して欲しい。

② 生徒質問票の分析結果について

過去3年間下降していた、生徒による満足度の数値が上昇したことは良い傾向である。ただし、分析によると生徒個々の満足度に与える教育活動の内容は、より多様化していく傾向にあるとのことであるため、過去の成功体験にとらわれることなく、在校生がどのような目標を持って学校生活を送っているかを、常に把握する努力をして、それを実現させることができるよう指導を行って欲しい。それを続けることで、生徒の満足度はさらに上昇していくのではないかと考える。

③ 総 評

平成30年度の教育活動を精査した結果、評価が3年振りに上昇に点していることをはじめとし、進路や部活動においても生徒が目標を実現できたという結果などを鑑みて、良好と判断したい。今年度も「克己復礼」の校訓に基づき、親身に教育活動を行って欲しい。

上記の通り報告いたします。

平成31年5月17日

北照高等学校保護者と教師の会会長

川口 政康

